



2010.5.3~5 ふるさとのまつり 太素祭



新渡戸塾開講

6月26日 人気歴史作家 童門冬二先生をむかえ開講式

私たちのふるさを後世に受け継ぐため、一昨年から準備を進めていた“新渡戸塾”を、市の教育委員会生涯学習課と記念館のボランティア団体Kyosokyodoとともに開催することとなり、一般向けの塾「新渡戸塾」と、子供（小学校高学年）向けの「寺子屋稲生塾」に分けて行います。これは、①豊かな人格の育成（1. 武士道精神の徳目を身に付ける 2. 開拓精神を養う）②郷土愛の醸成 ③グローバルな視点を養う ④地に足の付いた実行力をつける ⑤「絆」を確認する ⑥共生、共存、協働から共創への意識改革とその実践 を教育眼目に、新渡戸稲造の「武士道」精神と、三本木原開拓を行った新渡戸傳をはじめとする先人の「開拓精神」にまなび、ふるさとの「人」と「人の輪」をつくることを目標とするものです。地域の土台（歴史）を見直し、現代に活かし、未来につなぐまちづくりをいっしょに考えましょう。



新渡戸塾 開講基調講演（十和田市民大学講座 共催）

講師：童門冬二先生（歴史小説家）

と き：6月26(土) 13:30~15:30

演 題：歴史に見る日本の心—新渡戸稲造を中心に—

と ころ：十和田市民文化センター

国際人・新渡戸稲造の“和魂洋才”と“グローカリズム”から十和田市民の地域活動の意義を考えます

童門冬二先生プロフィール：昭和2年東京生まれ。かつて都庁に勤め、都立大学事務長、知事秘書、広報室長、企画調整局長、政策室長などを歴任して退職、作家活動に入る。歴史の中から現代に通ずるものを好んで書く。執筆活動のかたわら講演活動も積極的に行っている。平成11年勲三等瑞宝章受賞。おもな著書『小説上杉鷹山』『近江商人魂』『情の管理・知の管理』ほか多数

平成22年度「新渡戸塾」プログラム

- ◆講座Ⅰ◆三本木原開拓に学ぶ先人の心 [平成22年7月~9月]
- ◆講座Ⅱ◆武士道に学ぶ日本の心 [平成22年10月~12月]
- ◆講座Ⅲ◆歴史文化遺産に学ぶ大切なふるさと [平成23年3月~4月]
- ◆実践プロジェクト◆とわだ時空調査隊 [平成22年6月~] (詳細4面)

参加無料

※各講座テーマにそって講演・展示・体験・交流のプログラムを実施します。講座の詳細は市広報か新渡戸記念館ホームページをご覧ください。

平成22年度「寺子屋稲生塾」夏期プログラム（十和田市教育委員会 共催）

- 〈1〉開講式 & 志を七夕短冊に書こう！ 6月26日(土) 12:40~16:00 (場所：十和田市総合体育センター)
 - 〈2〉150年前の大作灯をつくろう！ 7月3日(土) 18:00~21:00 ※親子で参加 (場所：太素塚)
 - 〈3〉太素の森のお話し会—開拓を手伝った三本木のきつね— 8月1日(日) 9:00~12:00 (場所：太素塚)
 - 〈4〉まち探検—とわだの宝をさがそう！— 8月7日(土) 9:00~16:00※昼食持参 8日(日) 9:00~12:00 (場所：太素塚)
- ★プログラムの対象：小学校4年~6年生 ★定員：およそ30名 ★申し込み締め切り：6月16日(水)まで
★申し込み先：自分の学校の先生・市教育委員会生涯学習課 (TEL0176-23-5111 内線6524)・新渡戸記念館 (TEL0176-23-4430)

参加無料

地域博物館を拠点としたまちづくりを推進します

Kyosokyodo 世話人 新渡戸富恵

Kyosokyodo(共創郷土)は、以前から新渡戸記念館の活動を支える地域住民により構成された市民ボランティアです。「共創」は、力を合わせるといふコラボレーションから一歩進んで、自発的に、自律的に助け合い補い合って秩序を創る姿を理想としています。記念館の地域博物館機能と活動をサポートし、地域文化の特異性の中に現代に活かす意味や価値を探り、新しい十和田の未来を創るための鍵を提案するお手伝いをしたいと思っています。

EVENT **開催報告**

ふるさとを思う多くの人が参画！

稲生川上水152年記念 太素祭

平成22年5月3日(月)～5日(水)

[共催：観光協会・市・商工会議所・太素顕彰会 協力：十和田観光電鉄株]

稲生川上水152年記念太素祭が太素塚で行われ、様々なイベントを開催し、好天に恵まれ多くの人出で賑わいました。

5月3日(月) 17:00から新渡戸傳翁をはじめとする三本木原開拓に尽力した先人たちの偉業をしるんで、太素祭前夜祭を新渡戸傳翁墓・太素塚前で開催、前夜祭に先だち16:45から祝歌奉納として、稲生川ゆかりの幻の「三本木音頭」(作詞：初代三本木国営開墾事務所長溝口三郎博士・作曲：陸奥明氏)が桜田まことさんの歌でおよそ60年ぶりに復活しました。歌を聴いた小林喜美江さんは「素敵なお歌に感動しました。古い歌が若い方のアレンジで、モダンにいきいきと蘇えったと感じました」と話していました。翌日の5月4日(火) 10:00から太素例祭を太素塚墓前で開催し、参列者が献花を行いました。



「三本木音頭」復活を行って

シンガーソングライター 桜田まことさん (十和田市出身)

「三本木音頭」はおよそ60年ぶりの復活でしたが、歌詞は十和田の未来が感じられる内容でした。先人たちがどういう思いで未来を見つめていたか、152年目の太素祭という時に歌を通して感じることができました。新渡戸傳が燃やした思い、平和で安心して明るい未来を思い描いていたその頃の人たちの思いを60年目の歌を通して再確認でき、発表に携わった私自身も、それを少しでも受け継いでいきたいと思います。



三本木音頭を演奏する桜田まことさん

※三本木音頭の歌詞は記念館ホームページで紹介

太素祭 十和田ふるさと見本市

■場所：新渡戸記念館前テント

十和田市の地域特有の活動、産品が一堂に会した見本市。改めて見直すと外に自慢できるものがたくさんあります。出展者同士の交流の輪も広がり、十和田の地域資源を再発見できました。見学した方からは今後とも続けてほしいとの声を頂きました。出展団体の中でもセーフコミュニティの皆さんは3日間交替でメンバーの方がテントに常駐して、お客様に解説していただきました。ありがとうございました。

(出展団体) セーフコミュニティとわだをすすめる会/水土里ネット稲生川/道の駅とわだびあ/南部裂き織り保存会/十和田むらさき保存研究会/十和田市きみがらスリッパ生産組合/とわだ自然栽培研究所/ニンニクラブ/バラ焼きゼミナール/十和田乗馬倶楽部/十和田ふるさとガイドネットワーク/十和田湖自然ガイドクラブ/十和田湖・奥入瀬観光ボランティアの会/十和田ボランティアガイドの会/十和田国際交流協会(出展個人) 澤口駿三夫さん/小笠原カオルさん/小澤サカエさん/竹ヶ原トミさん(順不同)

十和田ふるさと見本市 参加団体のみなさんから

★天候にも恵まれ、太素祭も大盛況で終了でき皆様の笑顔が印象的でした。セーフコミュニティも市民に少しずつ浸透していることを実感しました。(セーフコミュニティ推進室次長 新井山洋子さん)

★今回の出展が、十和田市民への安全安心なまちづくりセーフコミュニティ活動の広がり役に役立つことを願っています。(セーフコミュニティとわだをすすめる会顧問 反町吉秀さん)

★住んでいても十和田市のことをよく知らない、情報発信の場も施設の連携も少ない、その現状の中画期的企画だと思いました。商品に込めた想いやプロセス、作り手の顔をもっと紹介したいと思っていた矢先で、本当にありがたく思っています。(道の駅とわだ 中浦麻美さん)



見本市テントの様子

トピックス

アフガニスタン音楽の第一人者 ウスタード・グルザマンさんの公開練習に当館が協力

館長代理が会長を務める十和田市立中央病院芸術ボランティアの会・アルタ・ノヴァならびに独立行政法人国際交流基金の主催で3月29日(月) 18:30から同院エントランスホールにおいて音楽交流会が行われ、入院患者や市民など約150人が音楽で一つになりました。出演者のアフガニスタン伝統音楽第一人者・ウスタード・グルザマンさんは、アフガニスタンフォークデュオ・チャルパーサさん、三味線奏者・黒澤博幸さん、シンガーソングライター・桜田まことさんとともに、交流会の前に公開練習を当館で行いました。グルザマンさんは、来館するとまず太素塚に献花され、それぞれの文化を大切に交流活動を行う氏の人柄が感じられました。



ゆるりら、十和田検定
プレイベント！
毎年恒例・太素祭クイズ大会
みんなで合格！
ニトちゃん検定



今年の景品・ニトちゃんビンパッチは
子どもたちに大人気でした



司会をする中城さつきさん

■場所：十和田市立新渡戸記念館

稲生川上水152年記念・太素祭の期間中、新渡戸記念館内では知力・体力・時の運を試す「ゆるりら、十和田検定」プレイベント“国際博物館の日記念”太素祭クイズ大会「みんなで合格！ニトちゃん検定」を開催しました。5月3日（月）に行われた太素ウォークと市内史跡めぐりの参加者には、それぞれ配付されるマップの裏面にクイズを掲載した特別バージョンを実施し、参加者459名（内ウォーク版43名・史跡めぐり版10名）中22名（ウォーク版4名・史跡めぐり版2名）の方がパーフェクトで「ニトちゃん検定」に合格されました。また、今年は飛び入り参加ですぐ景品がもらえる「ニトちゃんウルトラ！〇×クイズ！」も試験的に館内とステージ前で開催し、好評いただきました。

ニトちゃんウルトラ！〇×クイズ！の今後に期待 演歌堂のムードメーカー 中城さつきさん

太素祭のステージにもう10年以上携わっていますが、ステージを使った「ニトちゃんウルトラ！〇×クイズ！」は新しい試みと感じました。私も司会アシスタントを急ぎよ頼まれましたが、新たなものに挑戦する姿勢にとっても感動しました。今まで無いものをやることは、大変だけれども大事なことだと思います。だれもが参加でき、大人も子どもも楽しく、賢くなれる企画で、私も楽しくお手伝いしました。今後さらに充実させて継続してほしいと思います。

みんなで合格！ニトちゃん検定 答えあわせ

Q1 稲生川ができて今年で何年かな？

1. 142年 2. 152年 3. 162年

【こたえ2】

Q2 ニトちゃんのひたいには新渡戸家の家紋がついていますがこの家紋が何とよばれているかわかるかな？

1. つきあかり 2. つきほし 3. てんつき

【こたえ2】

Q3 新渡戸傳さんたちが開拓したのは三本木原という荒れた土地でした。さて、三本木とよばれるもととなった大木は何の木かな？

1. しろたも 2. あかまつ 3. さくら

【こたえ1】

Q4 これは測量器具の一つですが名前をなんという？

1. ほういき 2. すいへいき 3. こうばいき

【こたえ3】



Q5 新渡戸稲造さんは大変子ども好きでした。いつも子どもたちにおかしをあげていたため〇〇おじさんと呼ばれていました。さてそのおかしとは？

1. ガム 2. キャラメル 3. あめ玉

【こたえ2】

★国際博物館の日（5月18日）記念クイズ！★

Q6 国際的にかつやくした新渡戸稲造さんは国際連盟時代ジュネーブの何と呼ばれていた？

1. 太陽 2. 父 3. 星

【こたえ3】

平成22年 太素祭三二展示

まちにSLがやってきた！

十和田観光電鉄 開業の日

■場所：十和田市立新渡戸記念館1階特設コーナー

【協力：十和田観光電鉄株式会社】



開業当時のSL

「十和田観光電鉄の80年」(岸由一郎 著)より



車掌さん体験コーナー

大正11年（1922）9月5日まちの鉄道・十和田観光電鉄が開業した当時、そこに走ったのはSLでした。かつて陸上輸送の花形として活躍したSLの勇士、十鉄のなつかしい歴代車両、そして十和田市民文化センター前に今ひっそりとあるD51が、昭和49年（1974）十鉄の線路を通過して、子どもたちの大歓声を受けながらまちにやってきた日のことなどを当時の写真と資料で紹介しました。太素祭期間中、各日2回（10:30～/14:30～）車掌さんの制服、帽子を着けての改札、今は珍しい鉄道電話、太素祭記念定期券づくりなどの体験を無料でを行い、大人から子どもまで楽しんでいました。

★十和田市へのD51移設の写真は7月十和田市民文化センター・市民ギャラリーにおいて展示します

マイレール意識の醸成のために 十和田観光電鉄㈱ 運輸事業部鉄道課長 杉澤明彦さん

太素祭の体験コーナーでは、多くの方に来ていただきました。最初ためらっていた方も体験してみるととても喜ばれ、こちらは大変嬉しかったです。これからもマイレール意識の醸成や鉄道自らが観光資源となれるよう、鉄道関係だけでなく機会あるごとに様々なイベントで活動したいと感じました。



定期券づくりを補助する杉澤さん

EVENT **開催報告**

収蔵資料展 2010

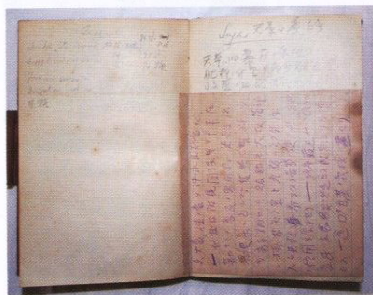
— 新渡戸稲造旧蔵書にみる殖産興業の系譜 —

■期間：平成22年2月23日(火)～平成22年3月31日(水)
 ■場所：十和田市立新渡戸記念館 1階特設展示コーナー

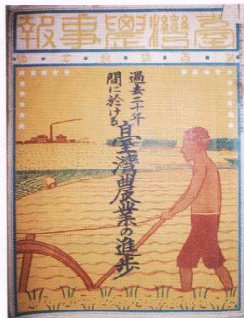
当館収蔵新渡戸稲造旧蔵書のうち、江戸時代農書から明治時代の殖産興業に関する書籍を中心に19点を展示しました。

新渡戸稲造の殖産興業「糖業改良意見書」

新渡戸稲造の父・新渡戸十次郎は三本木原開拓を単なる用水路開削と開田にとどまらない総合開発にまで推し進め、碁盤の目状の都市計画や産業開発まで行いました。そのため、稲造の蔵書の中には十次郎から受け継いだと考えられる江戸時代の産業書が多く含まれ、十次郎の号「受益堂」の蔵書印が見受けられます。稲造は明治10年(1877)札幌農学校に進んでいますが、この学校は日本農業の近代化、殖産興業に資する若者を養成するものでした。明治14年(1881)稲造の卒業時の志は「1. Opening up, (開拓) 2. Sugar Beets (甜菜)」であり、20年後の台湾の地でそれを実現させました。明治34年(1901)民政長官・後藤新平からの強い要請で台湾総督府勤務となり、同年9月稲造が提出した『糖業改良意見書』をもとに改革が始まりました。『改良意見書』は台湾財政の独立を目指す大改革で、それにより糖業は飛躍的発展を遂げ、現在の台湾経済の礎となっています。



初公開の新渡戸稲造直筆メモ
 『台湾糖業必携』2冊
 [明治35(1902)年 臨時台湾糖務局製造]



『過去二十年間に於ける台湾農業の進歩』
 台湾農事報 第100号記念号
 [大正4(1915)年3月 台湾農友会刊]

この雑誌には台湾製糖史に関する論文「製糖業」(石田研 著)の中で、新渡戸稲造の「糖業改良意見書」による改革が一つの転機であったと紹介されています。



新渡戸稲雄

さらに、この雑誌には、当時台湾総督府農事試験場昆虫部で研究を行っていた新渡戸稲雄(稲造の従兄弟)が書いた論文「虫害」も掲載があります。残念なことに、雑誌発刊から3ヵ月後、稲雄は新高山(現在の台湾・玉山)での昆虫採集旅行中にアメーバ赤痢にかかり、大正4年6月32歳の若さで亡くなっています。

休館のお知らせ 平成23年2月2日(水)～2月27日(日)

新渡戸記念館がより良い活動を皆様へ還元していくために所蔵目録の整理を休館の上行いますのでご了承下さい。

mini NEWS

資料の寄贈

- ・土岐理さん(青森市) 地域の古文書15点、ガリ版印刷機一式、16ミリ映写機一式、8ミリ、16ミリ映画各1本
- ・篠原益子さん(十和田市) 「写真集・なつかしの三本木」(日刊東北社) 1冊
- ・小笠原正さん(十和田市) 太素塚にマンサクの木1本

ありがとうございました

活動報告

▶館長講演会

- 2月19日(金) 平成21年度名水保全講演会(晴山公民館)
- 5月13日(木) 平成22年度県都市監査委員定期総会(十和田富士屋ホテル)
- 5月14日(金) 日本水道協会青森県支部第55回総会(サンロイヤル十和田)

▶平成22年度第1回太素顕彰会役員会を開催

平成22年4月13日(火)平成22年度第1回太素顕彰会役員会を十和田商工会議所5F会議室(10:00～)で開催。運営目標「世界に通ずる“わたしたちのローカル博物館”」実現のための平成22年度事業計画及び予算案について審議が行われ、原案通り可決されました。

▶館長代理が民音音楽博物館でショパンについて講演

5月10日(月)14:00から民音音楽博物館「ショパン生誕200年展」[会期：1月1日(金)～7月11日(日)]の記念文化講演会で館長代理が講演を行いました。音楽学博士であり、音楽評論家としても活動する館長代理は、情熱的な語り口でショパンの生涯と音楽を論じました。



講演では館長代理がクイズを出題し正解者に、ガイドブックを贈呈しました

編集後記

当館角田学芸員が月と金星が並行する写真を撮ったので私に見てくれという。各々が若干離れてはいるものの新渡戸家の家紋の形である。家紋の星は北斗(北極星)ではあるが、星に三日月が重なるときこそ先祖の信仰した北斗妙見、日く強大なパワーが生ずると信じていたらしい。元来新渡戸家は千葉氏の流れて、その関係から現在も年に一度一族の集会が催される。数百年の歳月には悲しい歴史も含まれるが、千葉から花巻、十和田へと今日があるのは嬉しい。月と星は昔と変わらず今後も我々を見守ってくれる。



2010.5.16撮影

(館長代理 新渡戸常憲)

■ご利用案内

- ・開館時間：午前9:00～午後4:00
 - ・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)
 - ・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)
 - 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日

編集・発行

2010年6月1日

太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館

〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

Tel & Fax : 0176-23-4430

Email : nitobemm@hi-net.ne.jp

株式会社 岩間印刷

印刷